第１回ＣＤＣ準備検討委員会での主な意見（1/2）

資料１

＜組織のあり方について＞

・専門家ボードは行政からある程度**独立**し、**科学的見地**から知事に提言を行う

・**今できつつある医療機関や保健所の間のプラットフォームを生かし**、足りない部分を補う

・国と都の関係性や役割分担の中で、**都だからこそできることは何か**という視点を持つ

・**リスクコミュニケーション**の守備範囲は広い。部門を**組織としてどう位置づけるか**

＜現場の声について＞

・**現場の情報**を迅速に収集し適切な意志決定を行うため、**組織間の横串をさす**

・病院や保健所などの**現場の声**を反映して欲しい、マンパワー不足が深刻

・都と区で指揮系統が機能するよう**連携を強化**し、**現場に下りていく**ことが重要

＜今後の対応について＞

・今回のコロナで、**CDCがあればよりうまくマネジメントできた**と言えるために何が必要か

・CDCによって、**未知のウイルスに対して今よりもうまく対応**できるようになるとよい

・**有事への切り替え**において実際に人をどう動かし、人員を確保するかがポイント

第１回ＣＤＣ準備検討委員会での主な意見（2/2）

＜次のインフルエンザ流行期への備えについて＞

・夏は重症者や死亡者は少なかったが、**冬はどれだけ増えるかわからないので注意が必要**

・**開業医や感染症専門でない医療機関では、新型コロナとインフルの同時診療は難しい**という声が出ている。

専門医でなくても対応が可能となるよう、**よりプラクティカルな仕組み**も検討

・**同時診療の抗原検査**も進化しつつある。現場で安全かつ迅速に検査・診療が行えるとよい

委員会後にいただいた次のインフルエンザ流行期に係る主な意見（1/3）

＜次のインフルエンザ流行期における感染拡大防止について＞

・次の感染拡大があるとすれば、**気温や湿度の低下に関連する病態の変化**や、**室内での活動が増えることによる影響も注意**する必要がある

・オーストラリアの第二波では冬の後半にかけて高齢者の感染者が急増し死亡者数も多くなった。一方、インフルエンザの流行規模は例年より小さくなっており、**新型コロナ対策がインフルエンザの流行拡大の抑止に功を奏した可能性**もある

・新型コロナウイルスもインフルエンザも、**ともに高齢者が重症化しやすい**感染症。どちらによって重症化しても、**結果的に同じように救急医療を圧迫**させていくことになる。

委員会後にいただいた次のインフルエンザ流行期に係る主な意見（2/3）

＜医療・検査体制について＞

・次のインフルエンザ流行期に向けては、**検査スポットの充実**（箇所数、1日あたりの受入数）や、各医療機関への**PPE（個人用防護具）の配布**、検査用の**キットや器具の確保**が必要

・「各クリニックが時間的分離を行う」「クリニック同志で輪番制を組む」などの対策を講じて、**全医療機関体制**（産科・透析など一部を除く）**を取るべき**

・診断、診療で混乱がないように準備をしていくことが重要。特に、**開業医の先生方のご協力を頂けるような体制を構築**し、**継続した活動が出来るような仕組み**として考えていくことが必要

・**インフルエンザのワクチン接種**により**高齢者の重症化率を下げる**こと、9/4の国の通知によって**検査・診療の体制に混乱が生じないように準備**することが重要

・インフルエンザの検査や治療薬の処方などの対応は、新型コロナに対応している保健所で行うのは難しい。**今後は医療機関での対応**しかできないことをまず明確にすべき

・東京都では、地区医師会を通じて1000以上の診療所が**唾液PCR検査**をできるようになっており、PCRセンターや帰国者接触者外来など、かなりしっかり**検査できる施設が多くある**のが強み

委員会後にいただいた次のインフルエンザ流行期に係る主な意見（3/3）

＜受診のフローについて＞

・**発熱患者が断られる状況をつくりださない**こと、中規模病院以上の**医療リソースをパンクさせない**ことを検討し、**都としてのフロー**を示していくとよい

・9/4の国の通知にある通り、事前に保健所に相談することなく、かかりつけ医等の**身近な医療機関に直接相談・受診し、検査まで完結する仕組み**が必須

・インフルエンザ感染の疑いのある患者は、地区医師会、医療機関を中心に展開していく。**通常のインフルエンザ体制のフローに新型コロナを付加**して作り上げていくとよいのではないか

・新型コロナ・インフルの**両方を検査できる医療機関を増やす**ことも必要

・４月時点より、**まずかかりつけ医等に電話で相談**の上、必要なら**その指示のもと受診**するように都民や医療機関に周知している。今冬のインフルエンザ流行期においても同じスキームで対処すべき

・インフルエンザの可能性が高ければ、**迅速検査後に抗インフルエンザ薬を投与**し、有効ならそのまま自宅療養、新型コロナの可能性が高ければ、**自院でPCR検査または地域のPCRセンターを紹介**する。両者が疑われる場合は、同時に両方の検査を自院で行う、もしくはインフルエンザの治療をして経過観察後にPCRセンター等を紹介、という流れもある